高崎芸術劇場広報誌

劇場都市

vol 07
2019 SUMMER
Takasaki City Theatre
Information Magazine
GEKIJOTOSHI

公益財団法人
高崎財団
The Takasaki Foundation

都市は劇場であり、劇場は都市である

劇場都市 vol.07
2019 SUMMER

都市は劇場であり、劇場は都市である

都市は、人生の喜怒哀楽が繰り広げられる舞台であり、都市そのものが劇場である
そこで生まれる芸術文化は感動や創造性につながり、都市そのものを作っていく――
「劇場都市」は、そこで生み出される文化芸術活動とそのドラマを紹介していきます

Contents

2 特集Ⅰ
高崎芸術劇場　特別顧問
大友 直人 劇場開館に掛ける思い

5 公演情報
高崎芸術劇場　開館記念演奏会「歓喜の歌」

6 movement
劇場都市 高崎の物語 6
高崎の映画文化を築き上げ繋げてきた巨匠
映写技師 小田橋（おだばし） 淳夫（あつお）

8 特集Ⅱ　インタビュー
炎のマエストロ　群響ミュージック・アドバイザー
小林 研一郎 *Ken-ichiro kobayashi*

11 公演情報
高崎芸術劇場オープン記念 第30回高崎音楽祭

12 公演情報
高崎芸術劇場オープニングラインナップ

裏表紙 MEET THE GSO
群馬交響楽団 楽団員インタビュー #07
セカンドヴァイオリン首席奏者 山本 はづき

◆表紙：「Untitled」by JON JON GREEN・松岡洋太
1978年高崎市生まれ。多摩美術大学美術学部卒業。2004年よりライブペインティングを軸に制作活動を開始。

特集Ⅰ

高崎芸術劇場　特別顧問

大友直人

劇場開館に掛ける思い

高崎の新たな文化の殿堂――高崎芸術劇場は
「歓喜の歌」とともに幕開けする。
開館記念公演でタクトを振るのは、
高崎芸術劇場特別顧問に就任したマエストロ大友直人。
自らナビゲーターを務めるラジオ番組
『大友直人のClassical Anatomy』で、
思い描く未来の高崎像について語りました。

聴き手：高崎財団 栗田弘之

ホールは生きている

©Rowland Kirishima

特別顧問として指揮記念すべきオープニング

――高崎芸術劇場特別顧問就任について、抱負をお聞かせください。

群馬交響楽団で六年間、音楽監督として高崎と深いお付き合いをもち、新にまたご縁を頂いたのは嬉しいですね。ステージの上で演奏する立場から角度を変えて、劇場全体と関われるというのは私にとってチャレンジです。

以前、東京文化会館の音楽監督をしていた経験はありますが、私のもっている力でお手伝いできることがあればと思います。

――高崎芸術劇場のこけら落とし公演は大友さん指揮による「歓喜の歌」、ベートーヴェン「第九」です。

一度しかないオープニング公演に立てるのは光栄なことです。私は東京のすみだトリフォニーホールのオープニングコンサートを振っています。やはり一生の思い出です。

――高崎第九合唱団も三百人を超えたと聞いております。

新しいホールの歴史的なオープニングとなると、ステージに立ちたい方も多くなるでしょう。

――ソリストは中嶋彰子さん、高崎出身の泉良平さんです。

泉さんは体格の良い、素晴らしいバリトンです。中嶋さんは今度、メゾソプラノのパートを受け持ちます。興味深いですよね。

――オープニングで「第九」を振ることについてはどんな思いでしょうか。

数多いクラシックの名曲の中でも最も祝祭的で、音楽そのものの意味、意義、素晴らしさをあの曲ほど明瞭にメッセージしているものも少ないと思います。ど真ん中の選曲ですが、やはり相応しいと思います。

劇場が育む群響サウンド

――新しいホールにはどんな役割があるでしょうか。

まずは、市民の皆さんにとって劇場に行くこと自体が日常にプラスアルファの素敵なこととして認識され、賑わいのある場所になってほしいです。そして群響の本拠地として演奏しやすい、素晴らしい響きのホール、楽団全体にとって使いやすいホールであることです。

――高崎芸術劇場の強みはどんなことがあるでしょうか。

全国にここ2、30年でホールがたくさんできていますが、そこをホームグラウンドとしている演奏団体があるところは数えるほどしかありません。群馬、高崎の場合は、すでに群馬音楽センターと群響の関係は緊密であり、芸術劇場と新たな関係を築いていけるのだろうと思います。ホールにとって群響の存在は何物にも代えがたい宝物です。

――新しいホールの響きが群響サウンドをもうひとつ飛躍させてくれるだろうと思うのですが。

仰るとおりだと思います。良い響き、残響、クリアに聞こえるホール、また居心地や空気感など環境の良い中での演奏はモチベーションが上がりますから、理屈抜きに群響メンバーの高揚感が増すでしょう。

ただ同時に、音楽作りの向上をホールに助けてもらう部分がありますから、自分達の音作りを心して磨く必要はあります。劇場が良い響きであることに越した事はないですが、その点を心していきたいですね。

――音楽センター設立の趣旨やポリシー、そこに込められている魂を群響は引き継いできたと思います。その上で新しいホールに移行できれば、まさに鬼に金棒になるのではないでしょうか。

そうですね。音楽センターもとってもいいホールだと思っているのですよ。残響は確かに少ないですけど、オーソドックスな音で良いと思います。あのデザインも素晴らしいし、ステージからお客様を近くに感じられる。これからも音楽センターはなくなるわけではないですし。贅沢ですね、二つもホールがあるということは。

――新しい芸術劇場に対して、提案していくことはありますか。

理想は、群響の演奏がいつでも聴ける、リハーサルが見られる環境です。ニューヨークのカーネギーホールやウィーンの国立歌劇場、ベルリンのフィルハーモニー、ミラノ・スカラ座など観光客も行ってみたいホールです。

私はよくオーケストラをレストラン

ヴァイオリニスト諏訪内晶子さんを迎えて
群響70周年の定期演奏会（群馬音楽センター2015.11.21）

に例えるのですが、自分が食事をしたいとき、いつでも行ける、美味しい料理が食べられることが基本です。現在月1回の群響定期演奏会を月2回とか、2つのシリーズをやるとか。平日午後のコンサートなど始めていますが、今後もいろいろな公演を増やせていけたらいいですね。

コンサートの醍醐味は共に作ること

――公演、劇場を楽しむコツとはどんなことでしょうか。

音楽や映画、絵画、文学でも、心の琴線に触れるときって予測もしなかった瞬間に訪れるものです。だから、アンテナを張って、新しい発見、心揺り動かされる瞬間に出逢ってほしい。聴き慣れている曲でも、上手いとか下手とか、好き嫌い関係なく、新しい発見が得られる。毎回、椅子から立ち上がれないほど感動するわけじゃないですが、何かしら発見があります。

映画やテレビと違うのは、自分もその演目を構成している一員ということですよね。スポーツでいうと、野球やサッカー、相撲でも、声援や野次を飛ばしたり、拍手したり。あれはゲームを見ているだけではなく参加しているのです。音楽会も同じで、聴くということ、拍手することを含めて自分達もコンサートを一緒に作っている。これがコンサートの醍醐味です。自分から能動的に、演目や劇場の空気の中に入り込む気持ちで、劇場に足を運んでみてはいかがでしょうか。

――群響は小中学生に生演奏を届ける移動音楽教室をやっています。大友さんがよく客演されるフランスのロレーヌ国立管弦楽団には音楽教室はあるのでしょうか。

その楽団のリハーサル、3、4日のうち一日は地元の小学生が見学に来ます。通常のリハーサルを静かに聴いているので感心しますよ。質疑応答もします。マナーも良いし、優秀です。

日本って音楽に限らず、子ども向けっていうのが多すぎるのではないでしょうか。お子様ランチも含めて。子どもも実は、大人が食べているものの方が美味しかったりする。少し背伸びして大人扱いされることに喜びを感じて、良い気分になるってことはある。大人の世界を垣間見る経験をしてもらって、大人の世界に自然と入っていくというのがいいのではないでしょうか。

その意味で大人の鑑賞に堪えうる、大人もうなるような演奏会や企画が増えていくほうがいいのではないかと思います。フランスの子ども達が難しい曲を静かに聞いて、質疑応答している姿を見るとそう思いますね。群響も学校公演とは別の切り口で、例えば一般公演のリハーサルとか更なる工夫ができると思います。

――高校生を対象にした公演で、拍手から指導して、スタンディングオベーションをしたことがありましたね。

自分の拍手でステージの空気が変わる経験をしてもらえました。理屈抜きに、大きい拍手を頂ければステージの上は嬉しいですし、自分達の拍手でステージの人達がやる気になっている姿を見れば、楽しいでしょ。

群響定期演奏会のお客さんは皆、温かい。中には、難しいことを仰るお客様もおられると思うけれど、全体としてとっても温かい。そういうお客様にどんどん増えていってもらうには、若い頃の体験は大事だと思います。

――私達も、クラシックの公演はこうあるべきだという枠を作りすぎてきたかなというのは反省点ですね。ロックやポップスの公演を見ていると、あの方が自然かなと感じます。それぞれが楽しんで参加しています。

まさしくそうですね。他のジャンルだとお客様が「今日は楽しみにいくぞ」という感じでいらっしゃいますよね。本来、クラシックも同じなのですよ。拍手をするところからステージと一緒に盛り上がって、良い空気で演奏を引き出す。演奏上手と聴き上手。そういう関係になっていってほしいですよね。

――最後に改めて、高崎劇術劇場がどんな劇場であったらよいとお考えでしょうか。

柔軟性をもって、使う方、観客の皆さまにとって幸せな時間を提供していきたいですよね。新しい劇場としてハード面はもちろん、どんなソフトを提供していくか、来て頂きやすい仕掛け、切り口の工夫が必要でしょう。

ホールは生きていますから、時代を重ねても生き生きとしたホールであり続けてほしいですね。

おおとも なおと

1958年東京生。桐朋学園大学卒。22歳で楽団推薦によりNHK交響楽団を指揮してデビュー。群馬交響楽団音楽監督（2013.4～2019.3）。現在、東京交響楽団名誉客演指揮者、京都市交響楽団桂冠指揮者、琉球交響楽団音楽監督。第8回渡邊暁雄音楽基金音楽賞（2000年）、第7回齋藤秀雄メモリアル基金賞（2008年）を受賞。

2019.9.20 華やかなる幕開け！！

高崎芸術劇場 開館記念演奏会「歓喜の歌」

世界的なソリストを迎え、群馬交響楽団、高崎第九合唱団による記念演奏会を開催！2000席の大劇場に響き渡るベートーヴェン交響曲「第九番」。フル編成の群響と300人を超える大合唱。開館を記念した委嘱作品もお披露目となり、新たな文化の殿堂が幕を開けます。

大友直人

クリスティン・ルイス

中嶋彰子

ベーター・ロダール

泉良平

2019 9/20(金) 14:00開演
高崎芸術劇場 大劇場

公募招待
高崎市内在住・在勤・在学の方対象

【出演】
大友直人（指揮）、群馬交響楽団（管弦楽）
クリスティン・ルイス（ソプラノ）、中嶋彰子（メゾ・ソプラノ）
ベーター・ロダール（テノール）、泉良平（バリトン）、高崎第九合唱団（合唱）
【曲目】
開館記念委嘱作品（初演）
ベートーヴェン／交響曲第9番「合唱付き」

【お申し込み方法】郵便はがきにて
〒370-8501 高崎市役所内高崎財団「第九」係 宛
郵便番号、住所、氏名、電話番号、希望人数（2名まで）を明記してご応募ください（応募は1人1枚）。
【締切り】7月31日（水）必着
＊応募者多数の場合は抽選し、結果は8月下旬に発送します。
【お問い合わせ】公益財団法人 高崎財団　TEL 027-321-1213

「歓喜の歌」出演歌手によるリサイタル 2Days

「音楽ホール」では、「歓喜の歌」のソリストとウィーン国立歌劇場専属ピアニストによるリサイタルを開催。ソプラノはウィーン国立歌劇場、パリのオペラ座等で活躍するクリスティン・ルイス。テノールはドイツを中心にヨーロッパ各地の歌劇場に出演するペーター・ロダール。劇場が新たに所有するオーストリア・ウィーンのベーゼンドルファー社製のピアノもお披露目となります。県内初の本格的な音楽専用ホールの響きを堪能ください。

チケット発売中
【料金】全席指定
5,000円（U-25：2,000円）
※未就学児は入場できません。
※U-25料金は公演当日25歳以下の方が対象です。

～北欧の光～ ペーター・ロダール＆中嶋彰子 デュオリサイタル

2019 9/21(土) 14:00開演
高崎芸術劇場 音楽ホール

中嶋彰子

ペーター・ロダール

【出演】
ペーター・ロダール、中嶋彰子
ルイゼラ・ジェルマーノ
（ウィーン国立歌劇場専属ピアニスト）
【曲目】
グリーグ／6つの歌曲Op.48より 第6曲 夢
ロッシーニ／音楽の夜会より 第8曲 踊り（ナポリのタランテラ）
ヴェルディ／歌劇「マクベス」より“ああ、父の手は”
ヨハン・シュトラウス2世／喜歌劇「ウィーン気質」より“ウィーン気質” ほか
Pコード 154-564

～ラ・ストゥペンダ～ クリスティン・ルイス ソプラノリサイタル

2019 9/22(日) 14:00開演
高崎芸術劇場 音楽ホール

クリスティン・ルイス

ルイゼラ・ジェルマーノ

【出演】
クリスティン・ルイス
ルイゼッラ・ジェルマーノ（ピアノ）
中嶋彰子（司会）
【曲目】
ヴェルディ／歌劇「運命の力」より“神よ、平和を与えたまえ！”
R・シュトラウス／九月、夕映えの中で
プレヴィン／「欲望という名の電車」より“私が欲しいのは魔法！” ほか
Pコード 154-559

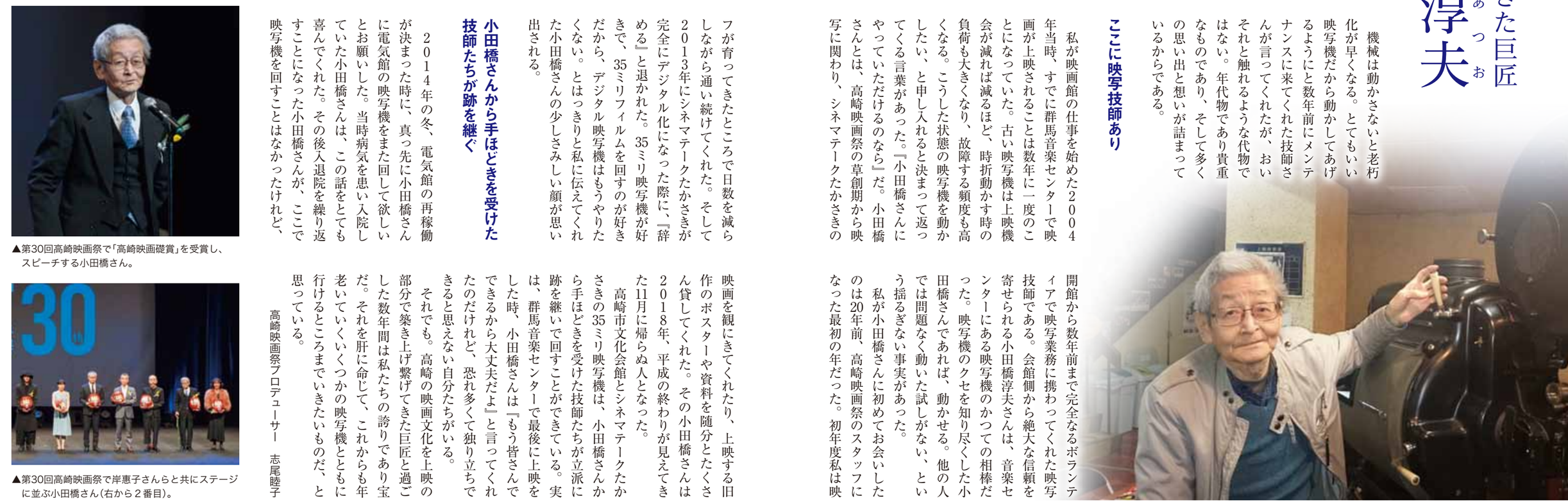
チケット発売時間・方法

web　高崎芸術劇場メンバーズ限定（P13参照）　その他　チケットぴあ 0570-02-9999

一般発売 8:30～17:15
窓口　●群馬音楽センター・高崎市文化会館（月休）　●高崎シティギャラリー　●箕郷文化会館・新町文化ホール・榛名文化会館・吉井文化会館（月・火休）　●高崎市倉渕支所〈地域振興課〉・高崎市群馬支所〈地域振興課〉（土・日・祝休）
電話　●群馬音楽センター（月休）TEL 027-322-4527　●高崎市文化会館（月休）TEL 027-325-0681　●高崎シティギャラリー TEL 027-328-5050

【公演についてのお問合せ】高崎芸術劇場　TEL 027-321-7300（平日8:30～17:15）

高崎の映画文化を築き上げ繋げてきた巨匠
映写技師 小田橋（おだばし） 淳夫（あつお）



▲高崎映画祭の草創期からボランティアスタッフとして上映に携わり、後進の育成にもあたった小田橋さん（2016.3.19高崎電気館にて）。

つの会館は半径2キロメートル圏内と近い。群馬音楽センターが開館した1961年は、その2館の間に8つの映画館があったわけで、これだけ近い距離で、公共ホールが興行館と同じ設備を要するという事は普通では考えられないことだった。双方の理解がなければ成立しない出来事であるし、それだけ文化芸術に対して力を入れていた土地柄なのだと推察できる。

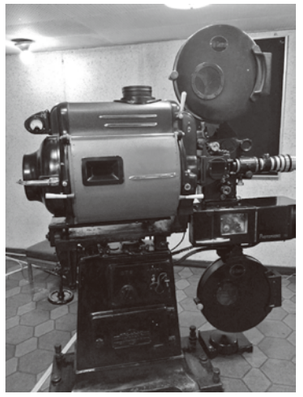
現在、市内にある現役の映写機で一番古いものは間違いなく群馬音楽センターの映写機だ。フィルムがまだ可燃性だった時代のもので各パーツごとに蓋がつけられている。磁器だった音声読み取りの部品はついたまま残っている。

機械は動かさないと老朽化が早くなる。とてもいい映写機だから動かしてあげるようにと数年前にメンテナンスに来てくれた技師さんが言ってくれたが、おいそれと触れるような代物ではない。年代物であり貴重なものであり、そして多くの思い出と想いが詰まっているからである。

ここに映写技師あり

私が映画館の仕事を始めた2004年当時、すでに群馬音楽センターで映画が上映されることは数年に一度のことになっていた。古い映写機は上映機会が減れば減るほど、時折動かす時の負荷も大きくなり、故障する頻度も高くなる。こうした状態の映写機を動かしたい、と申し入れると決まって返ってくる言葉があった。『小田橋さんにやっていただけるのなら』だ。小田橋さんとは、高崎映画祭の草創期から映写に関わり、シネマテークたかさきの開館から数年前まで完全なるボランティアで映写業務に携わってくれた映写技師である。会館側から絶大な信頼を寄せられる小田橋淳夫さんは、音楽センターにある映写機のかつての相棒だった。映写機のクセを知り尽くした小田橋さんであれば、動かせる。他の人では問題なく動いた試しがない、という揺るぎない事実があった。

私が小田橋さんに初めてお会いしたのは20年前、高崎映画祭のスタッフになった最初の年だった。初年度私は映



▲電気館に展示されている映写室から降ろされた35mm映写機

映画文化を支えてきた映写機

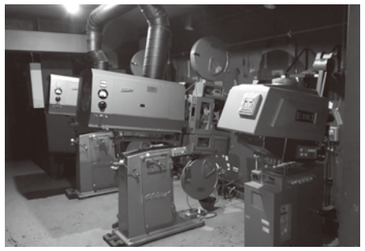
高崎電気館が高崎市の施設として再稼働した2014年から、定期的に『ここに泉あり』の上映をしている。上映素材は35ミリフィルム。高崎電気館には現役の35ミリ映写機があるからだ。2010年を境に日本の映画業界も一気にデジタル化され、映画の上映を35ミリですることは非常に少なくなった。現在シネマコンプレックスで35ミリ映写機を所有しているところはない。昔からある興行館も、地方にあるミニシアターも、手放すところが多く、デジタル機材を入れられずに閉じた映画館もある。それだけ35ミリ映写機が貴重なものになっている中、高崎市内には35ミリフィルム映写機を所有する建物が4館もある。これは今の時代なおさらに珍しい事例だ。

シネマテークたかさき、高崎電気館は映画館だがら当然としても、公共施設の高崎市文化会館、群馬音楽センターにも35ミリ映写機がある。二

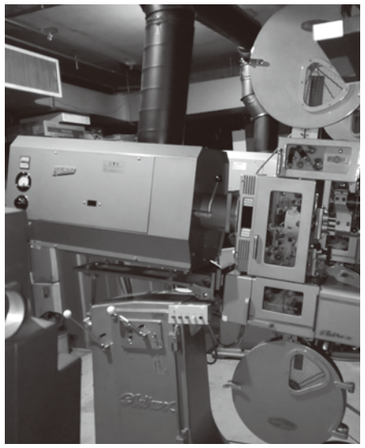
写班を希望し、毎日高崎市文化会館の映写室にいた。映画祭が始まって数日後、確か平日の昼間だった。試写中にトラブルが発生した。『小田橋さん呼んできて！』といわれた。これが私の映写班としての初仕事だった。え、誰それ、と思っていると『図書館にいるから！早く！』と畳み掛けられた。訳もわからず隣接の図書館に走った。出てきたのは、紺色のスーツを身にまとったスマートな白髪の紳士。あらあら、というふうに笑って小田橋さんは小走りに映写室へ向かってくれた。

高崎の映画上映を守り抜いた職人

かつて連雀町にあった映画館銀星座の映写技師だった小田橋さんは、群馬音楽センターが出来た時に映写や舞台周り全般の専門技師として市の職員になった。後で聞いた話だが、そうは言っても音楽センターで映画上映が毎日



▲群馬音楽センターの映写室



▲群馬音楽センターの35mm映写機

▲第30回高崎映画祭で「高崎映画礎賞」を受賞し、スピーチする小田橋さん。

▲第30回高崎映画祭で岸恵子さんらと共にステージに並ぶ小田橋さん（右から２番目）。

あるわけじゃないから、と小田橋さんは照明の勉強をし、当時高名だった照明技師に弟子入りして一から照明の勉強をしたそうだ。映写技師であり、照明技師だった小田橋さんだが、市の職員だから異動がある。私が出会った時は図書館に勤務していた。公共施設の映写機材は全部熟知していて、高崎映画祭が始まった頃からの映写の守り神。他方、映画のポスター、雑誌をはじめとするものすごい資料収集家でもあった。温和で穏やかで控えめな紳士は、知る人ぞ知る高崎の映画上映を守り抜いてきた職人だった。

市職員の傍、高崎映画祭があるとボランティアスタッフに映写を教え、共に映画上映をし続けた。退職されて程なく、シネマテークたかさきが無事に開館に漕ぎ着けると、大変だろうからと、自ら映写技師としてボランティアで協力すると言ってくださった。それから初めの数年間は週に4日、スタッフが育ってきたところで日数を減らしながら通い続けてくれた。そして2013年にシネマテークたかさきが完全にデジタル化になった際に、『辞める』と退かれた。35ミリ映写機が好きで、35ミリフィルムを回すのが好きだから、デジタル映写機はもうやりたくない。とはっきりと私に伝えてくれた小田橋さんの少しさみしい顔が思い出される。

小田橋さんから手ほどきを受けた技師たちが跡を継ぐ

2014年の冬、電気館の再稼働が決まった時に、真っ先に小田橋さんに電気館の映写機をまた回して欲しいとお願いした。当時病気を患い入院していた小田橋さんは、この話をとても喜んでくれた。その後入退院を繰り返すことになった小田橋さんが、ここで映写機を回すことはなかったけれど、映画を観にきてくれたり、上映する旧作のポスターや資料を随分とたくさん貸してくれた。その小田橋さんは2018年、平成の終わりが見えてきた11月に帰らぬ人となった。

高崎市文化会館とシネマテークたかさきの35ミリ映写機は、小田橋さんから手ほどきを受けた技師たちが立派に跡を継いで回すことができている。実は、群馬音楽センターで最後に上映をした時、小田橋さんは『もう皆さんでできるから大丈夫だよ』と言ってくれたのだけれど、恐れ多くて独り立ちできると思えない自分たちがいる。

それでも。高崎の映画文化を上映の部分で築き上げ繋げてきた巨匠と過ごした数年間は私たちの誇りであり宝だ。それを肝に命じて、これからも年老いていくいくつかの映写機とともに行けるところまでいきたいものだ、と思っている。

高崎映画祭プロデューサー　志尾睦子

超満員となったお披露目公演で熱いタクトを振る“炎のコバケン”(群馬音楽センター2019.4.13)

特集Ⅱ インタビュー

小林研一郎

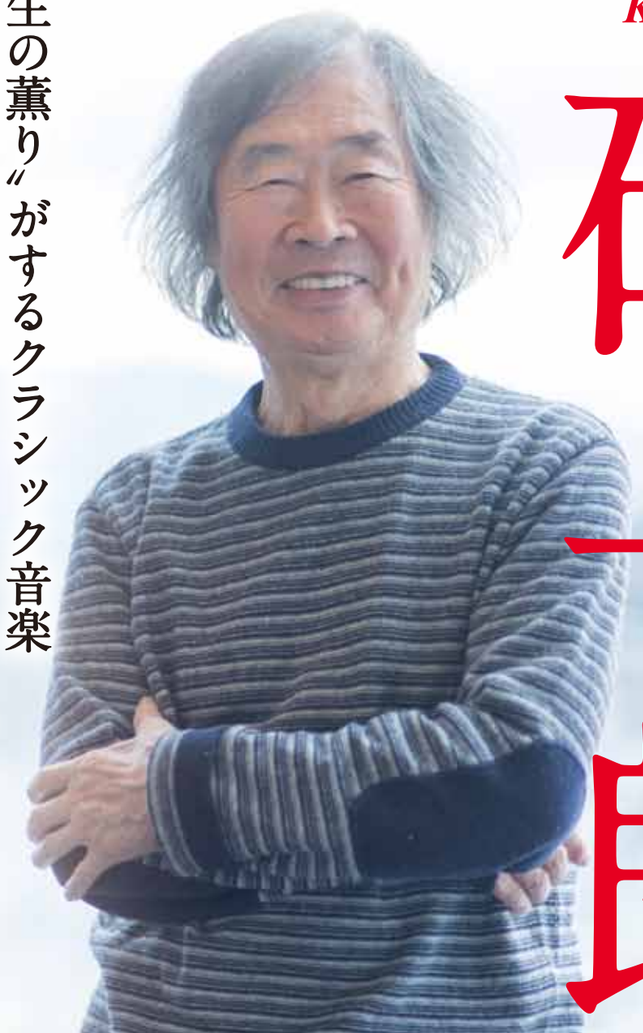
Ken-ichiro Kobayashi

“炎のマエストロ”

群馬交響楽団ミュージック・アドバイザー

“人生の薫り”がするクラシック音楽
「世の中には途轍もないものがある」
——そう子ども達に伝えたいのです

2019年9月、高崎芸術劇場に本拠地を移す群馬交響楽団は、更なる飛躍を目指す今年、世界的指揮者の小林研一郎氏をミュージック・アドバイザーに迎えた。「三年間の任期で燃焼しつくしたい——」そう誓う炎のコバケン、七十九歳が今、語ることとは。



高崎市役所21階アートマルシェにて撮影

群響との深い縁

——群響ミュージック・アドバイザーに就任された、今のお気持ちをお聞かせください。

こういう冠を頂くと「家族」になりますね。当初は随分悩みました。79歳になった私が群響の発展にエネルギーを燃やせられるのか、今までの経験を放出できるのか、複雑な思いでした。

でも、リハーサルで『英雄』をやり、彼らは日本人のもつ独特な霊感や祈り、さまざまに変化できる心を持った人達の集まりだなと思いました。音に対して献身的に打ち込む姿を見て「群響に来てよかった」と思いました。

思えば山田一雄先生(群響元芸術監督)が、東京藝術大学を卒業したばかりの私に定期演奏会(1970年3月・第108回)で振るチャンスをくれたのです。その経験が経歴証明となってブタペストの国際指揮者コンクールに出ることができ、一位になりました。群響様々なのです(笑)。この巡り会わせに感謝しています。

私がプラハでチェコフィルハーモニーを指揮したのは2002年でした。それ以前に群響はそこで演奏しています。群響は国外的にも活躍する力を持っていると思います。群響の放つ音は、人々の心のひだに届く音です。群響を世界に通じさせる高い地位まで持っていきたいですね。

幼少期の思い出

——音楽との最初の出会いは、どんなものでしたか。

僕は福島の小名浜で生まれ育ちました。三歳のとき、太平洋戦争二年目、上空をB29が飛び、沖では艦砲射撃の音がしている。そんな恐怖の時代、父親の弾くピアノの音を聞きました。高校の体育教師だった父が学校で「月の砂漠」を弾いてくれたのです。

トットツと始まった音が「金と銀との…」というところでアルペジオになって音を連ねたのです。三歳の僕は「父さん、もう一回やって。どうやって弾くの?僕にも弾かせて」——2つ3つと自分で弾けたときの喜びは忘れられません。

群響の移動音楽教室は子ども達に、「世の中には途轍もないものがあるよ」という触れ合いの場なのです。その出会いが大人になったときに演奏会に行く礎となるのです。子ども達ってセンシティブですからね。「今日の、すごかった」って思わせるようにしなければ。僕も移動音楽教室に弟子を二人ほど送り込みたいと思っています。

——ラジオで聞いたベートーヴェンの「第九」との出会いも衝撃的だったそうですね。

9歳のときでした。でも、「第九」を聴いて初めから感動するというのではなく、三歳のときの父のピアノが心の中に眠っていたからです。疎開先の白河でラジオから流れてきた歌謡曲や童謡も下地になっています。

僕は小学生のとき、よく講堂にこっそり忍び込みました。グランドピアノの蓋の隙間に下敷きを挟んで、上手い具合に開けるテクニックを身につけたのです(笑)。真っ暗な中で微かに見える白い鍵盤。それを弾く。和音になる。三つの音が鳴る。それが嬉しくてまた行く。自分の思いの丈を弾く。ある日、音を聞きつけた用務員さんが来て逃げる。足が速くなる。その繰り返しでした(笑)。教頭が私の母親でしたので「研一郎を許してやってください」で済みましたからね。

母親が刷ってくれた五線譜に音を書く。なぜか、うちの本棚に音楽書がたくさんあったので勉強したのです。その理由が分かったのは、父が92歳で亡くなったとき、弔辞で父が音楽家を目指していたことを知ったのです。でも、断念し「メシが食えるように」と教師になった。その息子が音楽を始める。父は「絶対やらせちゃいけない」と僕の書いた五線紙を破る。両足を持って井戸に宙吊りにされたこともありました(笑)。

でも、僕が中学生のときにNHKの音楽コンクールに出した作品がラジオで流れ、評論家が「この子はとても珍しい才能を持っている。是非、育ててほしい」と言い、さすがに父親も折

れてそこからはピアノを買ってくれたり、勉強に出してくれました。

小さい頃というのは、何かに向かってはじける時期なのです。移動音楽教室はまさに天から光を与えるチャンスです。子ども達の目の色が変わります、お手紙もきます。子どもは大事にしないといけないと思っています。

天からの贈り物

――高崎芸術劇場のオープンについてどんな思いでしょうか。

喜びですね。ネームバリューのあるオーケストラは、必ず良いホールと良い楽器、贅沢な資金を持っているのです。ムジークフェラインというホールがなかったら、ウィーンフィルは出来上がらなかったでしょう。世界最高峰のストラディバリウスを一人ずつ配るのですから。そんな音が八方からくれば他の楽器だって迂闊に弾けない。それがウィーンフィルを作ってきたと思うのです。高崎芸術劇場は、天からの贈り物だと思っています。

――指揮をしていて、聴衆の思いは感じるものでしょうか。

不思議ですが、この背中で感じるのです。皆さんの呼吸や吐息、鼓動、すべてがひとつになって僕を襲ってくるのです。一番辛いのは「つまんねえなぁ」と思っているときです。ドキドキして、絶叫しそうな声なき声もあります。指揮をしながら聴衆の心の声が聞こえるのは宿命ですね。でも、僕らが時間を掛けて音を紡いでいくと必ず伝わるものがあります。

――愛称「炎のコバケン」への思いは。

どなたかが付けて、それがもぎ取られないでいるのは何かあるのでしょうね。群馬にコバケンが来てくれて嬉しいですと言われれば、私も嬉しく誠心誠意、力を尽くしたい。それによって燃焼度が上がり、リハーサルの集中度が違ってきます。そうやって八十年近くかけて紡いできた人生ですから、炎にならざるを得ないですね。

一方、冷徹な指揮を命とされる方もいます。「燃焼こそ命」と思う人間と正反対ですから、世の中面白いと思ってください。僕がクールなときもありますし、方向性が定まらないときもある。それは、人間ですからね。許して頂きたいですね。

――音楽以外の息抜き法は何ですか。

昔はよくスポーツをしました。中学生の頃、百メートル日本記録に近かったのです。でもね、他の選手はスパイクで僕は裸足（笑）。

そんな風にスポーツが好きで、ゴルフや野球をやったり。時には将棋をやって、プロの方に勝てたこともあります。映画も見ますし、最近は漫画を読みます。集中しすぎては駄目なので『クレヨンしんちゃん』を2ページ読むと寝られます。面白いですからね。

――メッセージをお願いします。

私はいつも「皆さんの熱意が今日の演奏を作ってくれました」とステージから直接、感謝を伝えるようにしています。私達は聴衆の皆さんがいないと成り立ちません。群響を盛り立てていただいて、スタンディングオベーションで拍手を送っていただきたい。そして、皆さんに伝えたいのは「クラシック音楽を聴くと人生が薫りますよ」ということですね。

――これからの公演を益々、楽しみにしています。本日はありがとうございました。

こばやしけんいちろう
1940年福島県生。東京藝術大学作曲科および指揮科卒業。1974年第1回ブダペスト国際指揮者コンクール第１位、特別賞受賞。現在、日本フィル桂冠名誉指揮者、ハンガリー国立フィルおよび名古屋フィルの桂冠指揮者などを務める。2019年4月、群馬交響楽団ミュージック・アドバイザー就任。

小林研一郎指揮・公演情報

■第550回群響定期演奏会　前売り完売御礼

【日時】7月13日（土）18:45開演
【会場】群馬音楽センター
【出演】木嶋真優（ヴァイオリン）
【曲目】チャイコフスキー／ヴァイオリン協奏曲ニ長調作品35
／交響曲第4番ヘ短調作品36
【料金】S席4,600円　A席4,100円
B席3,600円　C席（自由席）2,100円
＊U-18（18歳以下）の方は一回券が50%。
（販売は群響事務局のみ）
【お問い合わせ】群馬交響楽団
TEL：027-322-4316

■第30回高崎音楽祭《コバケンの「巨人」》
詳細は左ページ参照

チケット好評発売中
一部公演は除く

高崎芸術劇場 オープン記念 **第30回 高崎音楽祭**

問い合わせ先：高崎音楽祭事務局（☎ 322-9195）　ホームページ http://www.takasakiongakusai.jp

高崎芸術劇場　大劇場

加藤登紀子＆森山良子 シンフォニックコンサート with 群馬交響楽団
9月22日(日)15:00開演

【出演】加藤登紀子、森山良子、鈴木織衛（指揮）、群馬交響楽団
【料金】全席指定 7,000円

小林研一郎指揮 群馬交響楽団特別演奏会 ＜コバケンの巨人＞
9月28日(土)15:00開演

【出演】小林研一郎（指揮）、金子三勇士（ピアノ）
群馬交響楽団
【曲目】モーツァルト「ピアノ協奏曲第20番」、マーラー「交響曲第1番《巨人》」
【料金】全席指定 S席5,500円　A席4,500円　B席3,500円

酒井 茜&マルタ・アルゲリッチ ピアノ・デュオ・リサイタル
9月29日(日)17:00開演

【チケット発売】高崎芸術劇場メンバーズ限定：7/24(水)10時～、一般発売：7/26(金)10時～

【出演】酒井茜、マルタ・アルゲリッチ
【曲目】モーツァルト「4手のためのピアノ・ソナタ ニ長調」
プロコフィエフ（プレトニョフ編曲）「組曲《シンデレラ》」
ストラビンスキー（自身による4手編曲）「春の祭典」
【料金】全席指定 S席12,000円　A席9,000円　B席6,000円

ゴスペラーズ ビッグバンドコンサート
10月5日(土)17:30開演／10月6日(日)16:30開演

【チケット発売】WEB・一般発売：8/3(土)10時～

【出演】ゴスペラーズ
GBB（ゴスペラーズビッグバンド、
バンドマスター：笹路正徳・高崎市出身）
【料金】全席指定 7,500円
※小学生以上は有料。未就学児童は保護者1人につき1人だけ膝上鑑賞可能。
未就学児童でも座席が必要な場合は有料 ※「2. 市プレイガイド」では販売しません

美輪明宏の世界～愛の話とシャンソンと～
10月11日(金)18:30開演

【料金】全席指定 6,500円

「音楽のある街 高崎」 スペシャル シンフォニックコンサート
10月14日(月・祝)14:00開演

公募招待 入場無料

【出演】大友直人（指揮）、出来田三智子（ソプラノ）、本島阿佐子（ソプラノ）
大山亜紀子（ソプラノ）、泉良平（バリトン）、群馬交響楽団

【申し込み】7月31日（水）までに、往復はがきに住所・氏名・年齢・電話番号・希望人数（2人まで）を書いて、〒370-0849 八島町265　ラジオ高崎内 高崎音楽祭コンサート係へ。応募多数の場合は抽選します

高崎芸術劇場 音楽ホール

ラルフ・タウナー アコースティックギターの祭典
9月29日(日)17:00開演

【ゲスト】FRET LAND（鬼怒無月、有田純弘、竹中俊二）
【料金】全席指定 6,000円

仲道郁代 ピアノ・リサイタル
10月1日(火)13:30開演

【曲目】ベートーヴェン「ピアノ・ソナタ第8番 ハ短調《悲愴》」ほか
【料金】全席指定 3,000円

高崎芸術劇場 スタジオシアター

松井常松 with no+ subject
9月23日(月・祝)17:00開演

【出演】松井常松、松本直樹（パーカッション）
秀吉（バンド）ほか
【料金】全席指定 4,000円

夏木マリ マリと高崎の神隠しコンサート
9月26日(木)19:00開演

【料金】全席指定 6,000円

りんけんバンドコンサート
9月28日(土)17:00開演

【料金】全席指定 4,000円
※小学生以上は有料。未就学児童は保護者1人につき1人だけ膝上鑑賞可能。
未就学児童でも座席が必要な場合は有料

PERSONZ
10月5日(土)18:00開演

【料金】全席指定 6,500円
※小学生以上は有料。未就学児童は保護者1人につき1人だけ膝上鑑賞可能。
未就学児童でも座席が必要な場合は有料

CRAZY KEN BAND
10月8日(火)18:30開演

【料金】1階（立見）6,000円　2階（全席指定）6,500円
※小学生以下は入場できません

渡辺貞夫クインテット2019 ～Time After Time ～
10月10日(木)19:00開演

【出演】渡辺貞夫（アルトサックス）、林正樹（ピアノ）
コモブチ キイチロウ（ベース）
竹村一哲（ドラムス）、ンジャセ・ニャン（パーカッション）
【料金】全席指定 6,000円

山中千尋 エレクトリック・フィメール・トリオ
10月12日(土)17:00開演

【出演】山中千尋（ピアノ・キーボード）、ジェニファー・レイサム（ベース）
カレン・テパーバーグ（ドラムス）
【料金】全席指定 5,000円

el tempo directed by シシド・カフカ / サンティアゴ・バスケス
10月14日(月・祝)14:00開演、18:30開演

【出演】シシド・カフカ、サンティアゴ・バスケスほか
【料金】全席指定 6,000円

※一部の公演を除き未就学児は入場できません。都合により、出演者など公演内容が変更になることがございますのでご了承ください

プレイガイド

1. 高崎芸術劇場メンバーズ（登録無料）
http://takasaki-foundation.or.jp/theatre/
2. 市プレイガイド【窓口販売だけ】
音楽センター、市文化会館、シティギャラリー、箕郷文化会館、新町文化ホール、榛名文化会館、吉井文化会館、倉渕支所地域振興課、群馬支所地域振興課
3. ローソンチケット
http://l-tike.com　☎0570-000-777（午前10時～午後8時）全国のローソン各店
4. e+（イープラス）
http://eplus.jp　全国のファミリーマート各店
5. チケットぴあ
http://pia.jp　☎0570-02-9999　全国のセブン-イレブン、チケットぴあ店舗

主催／高崎音楽祭委員会・高崎市　　共催／高崎財団　　後援／高崎商工会議所・ラジオ高崎・高崎観光協会

高崎芸術劇場オープニングラインナップ

大劇場 ～国内最大級の舞台面を誇る臨場感あふれる高機能ホール～

ポーランド国立民族合唱舞踊団「シロンスク」
10月19日(土)18:30開演／10月20日(土)14:00開演

日本・ポーランド国交樹立100周年に贈る豪華なステージ。フォークロアの宝庫ポーランド伝統舞踊と合唱を存分に担当できます。

【曲目】ポロネーズ、マズル、シュワ・ジェヴェチカ、ほか
【チケット発売】W 7/19(金)　T 7/24(水)・25(木)　一般 7/26(金)
【料金】全席指定 S席 7,500円 A席 6,500円

トリエステ・ヴェルディ歌劇場「椿姫」
11月3日(日・祝)16:00開演

ヴェルディゆかりの歌劇場が満を持して届ける「椿姫」。ヴィオレッタ役にイタリアの名花・ランカトーレが出演！

【チケット発売】発売中
【料金】全席指定 S席15,000円　A席12,000円　B席9,000円
~~C席 6,000円~~　~~U-25(C席)2,000円~~　C席完売

ケント・ナガノ指揮 ハンブルク・フィルハーモニー管弦楽団 辻井伸行(ピアノ)
11月6日(水)19:00開演　完売御礼

新時代の巨匠ケント・ナガノ率いる名門オケと辻井伸行、夢の初共演！

ケント・ナガノ

辻井伸行

【曲目】イェルク・ヴィトマン：コン・ブリオ
ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第5番《皇帝》
ブラームス：交響曲第1番
【料金】全席指定 ~~S席14,000円~~　~~A席10,000円~~　~~B席7,000円~~　~~U-25(B席)3,000円~~

Iwatani presents Mariko Takahashi Concert vol.43 2019 MariCovers
11月9日(土)18:00開演

今年、セルフ・カバー・アルバム「MariCovers」をリリースし、円熟味溢れるボーカルと新たな大人アレンジでファンを魅了しつづける高橋真梨子待望のコンサート。

【チケット発売】W 8/2(金)　T 8/7(水)・8(木)　一般 8/9(金)
【料金】全席指定 8,800円

雅楽　伶楽舎(がくれいがくしゃ)
11月17日(日)15:00開演

フランス・パリで行われたジャポニズム2018出演など、国内外で精力的に活動するプロ雅楽グループが、改元の年にふさわしい祝祭感に満ちた日本古来の響きと格調高い舞を披露。

【チケット発売】W 7/19(金)　T 7/24(水)・25(木)　一般 7/26(金)
【料金】全席指定 S席5,000円　A席4,000円　B席3,000円　U-25(B席)1,500円

第30回高崎元旦コンサート
2020年1月1日(水・祝)13:30開演

「音楽のある街」の元日恒例の群馬交響楽団によるコンサート。今回は、大友直人(前群響音楽監督)を指揮に迎えます。

大友直人

【出演】大友直人(指揮)、群馬交響楽団
【チケット発売】W 8/23(金)　T 8/28(水)・29(木)　一般 8/30(金)
【料金】全席指定 S席5,000円　A席4,000円　B席3,000円　U-25(B席)1,500円

シルク・ドゥラ・シンフォニー
2020年1月7日(火)18:30開演

エアリアル、フラフープ、ジャグリング、ピエロなど、サーカス界のトップアーティスト達がフルオーケストラと共演。「白鳥の湖」「カルメン」等、名曲と共に繰り広げる大スペクタクル。全米大ヒットの公演は必見。

【チケット発売】W 9/27(金)　T 10/2(水)・3(木)　一般 10/4(金)
【料金】全席指定 S席8,000円　A席6,000円　B席4,000円

パーヴォ・ヤルヴィ&NHK交響楽団 高崎公演
2020年2月8日(土)14:00開演

2015年、N響首席指揮者就任以来、多くのファンを魅了。世界に誇る名コンビ「パーヴォ&N響」が奏でる渾身のラフマニノフ。

パーヴォ・ヤルヴィ

【出演】パーヴォ・ヤルヴィ(指揮)、レティシア・モレノ(ヴァイオリン)、NHK交響楽団
【曲目】プロコフィエフ：ヴァイオリン協奏曲 第1番
ラフマニノフ：交響曲 第2番
【チケット発売】W 7/5(金)　T 7/10(水)・11(木)　一般 7/12(金)
【料金】全席指定 S席8,000円　A席6,000円　B席4,000円　U-25(B席)2,000円

小曽根真&No Name Horses
2020年3月7日(土)16:00開演

ピアニスト小曽根真が率いる総勢15名のビッグバンド。メンバーはいずれも日本を代表するミュージシャンで、自身のバンドにてリーダーを務めるトップ奏者が集結。

【チケット発売】W 8/2(金)　T 8/7(水)・8(木)　一般 8/9(金)
【料金】全席指定 S席5,000円　A席4,000円　B席3,000円　U-25(B席)1,500円

高崎芸術劇場メンバーズ

登録料 年会費 無料

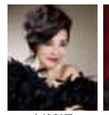
高崎芸術劇場メンバーズは、より便利に、
より早くチケットが購入できる無料のサービスです

- 画面上で座席を選ぶことができます（一部対象外の公演もございます）
- 受取方法は、お近くのセブン-イレブンでの受け取りか郵送が選べます
- 有効期限はありません

高崎芸術劇場ホームページからご登録をお願いいたします
http://takasaki-foundation.or.jp/theatre/membership.php
高崎芸術劇場メンバーズ　スマートフォンからでもご登録いただけます▶

音楽ホール ～リサイタルに最も適した413席の贅沢な空間～

ペーター・ロダール &中嶋彰子デュオリサイタル
9月21日(土)14:00開演
＊5ページ参照


中嶋彰子

ペーター・ロダール

クリスティン・ルイス ソプラノリサイタル
9月22日(日)14:00開演
＊5ページ参照

クリスティン・ルイス

ルイゼラ・ジェルマーノ

イザベル・ファウスト(ヴァイオリン)&アレクサンドル・メルニコフ(ピアノ)
10月30日(日)19:00開演　残席僅か

今回来日3公演のみ、世界屈指のヴァイオリニストによる稀少公演。メルニコフとの黄金のコンビが奏でる近代ソナタ作品の傑作。

【曲目】ドビュッシー：ヴァイオリン・ソナタ
バルトーク：ヴァイオリン・ソナタ第1番
ストラヴィンスキー：協奏的二重奏曲、ほか
【チケット発売】発売中
【料金】全席指定 8,000円　U-25 2,500円

アルディッティ弦楽四重奏団&高橋悠治(ピアノ)
11月23日(土・祝)14:00開演

現代音楽界のパイオニア的存在・アルディッティQが世界的作曲家・細川俊夫による作品(高崎芸術劇場委嘱)を初演します。

アルディッティ弦楽四重奏団

【曲目】シャリーノ：Codex Purpureus II、クセナキス：Akéa
高橋悠治：新作、シャリーノ：6 Quartetti brevi
細川俊夫：新作(世界初演・高崎芸術劇場共同委嘱作品)
【チケット発売】発売中
【料金】全席指定 8,000円　U-25 2,500円

イーヴォ・ポゴレリッチ ピアノ・リサイタル
2020年2月7日(金)19:00開演

狂おしき静謐(せいひつ)。円熟期を迎えた天才ピアニスト。孤高の天才による原点回帰的プログラム！

【曲目】J.S.バッハ：イギリス組曲第3番
ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第11番
ショパン：舟歌 op. 60、前奏曲
ラヴェル：夜のガスパール
【チケット発売】W 7/19(金)　T 7/24(水)・25(木)　一般 7/26(金)
【料金】全席指定 10,000円　U-25 3,000円

パウル・バドゥラ=スコダ ピアノ・リサイタル
10月25日(金)19:00開演

92歳。ピアノ界の生ける伝説が奏でるベートーヴェン&シューベルト。巨匠スコダの音楽家人生を俯瞰するプログラム。

【曲目】ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第1番、6つのバガデル
シューベルト：ピアノ・ソナタ第21番
【チケット発売】発売中
【料金】全席指定 5,000円　U-25 2,000円

マリコとオペラ！～作家・林真理子のトーク・コンサート～
11月14日(木)14:00開演

テーマは「音楽と文学のすてきな出会い」。林真理子セレクトによる珠玉のオペラと魅惑のクロストークをお楽しみください。

【出演】林真理子(トーク)、小林沙羅(ソプラノ)、望月哲也(テノール)
河野紘子(ピアノ)、浦久俊彦(司会&進行)
【チケット発売】W 8/23(金)　T 8/28(水)・29(木)　一般 8/30(金)
【料金】全席指定 5,000円　U-25 2,000円

エマニュエル・パユ(フルート)&エリック・ル・サージュ(ピアノ)
12月1日(日)14:00開演　残席僅か

不動の人気を誇るフルートの貴公子パユが盟友ル・サージュとともに奏でる至福のデュオ。

エマニュエル・パユ

【曲目】デュティユー：ソナチネ
ベートーヴェン：セレナード ニ長調 Op.41、ソナタ 下長調
プロコフィエフ：フルート・ソナタ
【チケット発売】発売中
【料金】全席指定 6,000円　U-25 2,000円

アマンディーヌ・ベイエ(ヴァイオリン)&リ・インコーニティ
2020年3月14日(土)14:00開演

ヨーロッパ古楽界を席巻、バロック・ヴァイオリンの名手が率いるアンサンブルによる「四季」。

アマンディーヌ・ベイエ

【曲目】ヴィヴァルディ：歌劇「オリンピアーデ」から　シンフォニア ハ長調 RV725
ヴィヴァルディ：チェロ協奏曲 イ長調 RV421
ヴィヴァルディ：ヴァイオリンとオルガンのための協奏曲 ト短調 RV517
ヴィヴァルディ：ヴァイオリン協奏曲集「四季」
【チケット発売】W 7/19(金)　T 7/24(水)・25(木)　一般 7/26(金)
【料金】全席指定 5,000円　U-25 2,000円

※U-25料金は公演当日25歳以下が対象です。

チケット発売時間・方法

web先行 受付日の10:00から発売。
高崎芸術劇場メンバーズ限定。

電話先行 各日10:00～18:00に
専用ダイヤル027-321-3900で受け付け。

その他 チケットぴあ　0570-02-9999
イープラス　eplus.jp

一般発売
一般窓口(窓口販売開始日の10:00～／以後8:30～17:15)
●群馬音楽センター・高崎市文化会館(月休)　●高崎シティギャラリー
●箕郷文化会館・新町文化ホール・榛名文化会館・吉井文化会館(月・火休)
●高崎市倉渕支所〈地域振興課〉・高崎市群馬支所〈地域振興課〉(土・日・祝休)
一般電話(窓口販売開始日の13:00～)
●群馬音楽センター(月休)　TEL 027-322-4527
●高崎市文化会館(月休)　TEL 027-325-0681
●高崎シティギャラリー　TEL 027-328-5050

【公演についてのお問合せ】高崎芸術劇場　TEL 027-321-7300（平日8:30～17:15）

W＝web先行　T＝電話先行　一般＝一般発売

劇場都市 vol 07 2019 Summer 2019年7月1日発行 編集・発行：公益財団法人高崎財団 高崎芸術劇場 〒370-0841 高崎市栄町9-1 tel:027-321-7300 印刷：株式会社精真社 制作：株式会社グラスロード社

MEET THE GSO

GUNMA SYMPHONY ORCHESTRA

群馬交響楽団
楽団員インタビュー

Vol.7

脈々と引き継がれる70年の群響サウンド
それを奏でる個性あふれるメンバーたち
楽団員を知れば群響がもっと好きになる

リスクを恐れず挑戦する——巨匠たちの姿を見習いたい

群馬交響楽団
セカンドヴァイオリン首席奏者

山本 はづき

やまもと はづき

「音が並んだだけの完璧な演奏はつまらない。そこを越えた向こうにあるもの。それが本番で出た時、心揺さぶられます」——敬愛する音楽家達、オーギュスタン・デュメイ、ギドン・クレーメル、ゲルハルト・ボッセ。巨匠達の共通点は皆「リスクを恐れず挑戦し、良いものをつくろうとする姿勢」だ。

ヴァイオリン少女からプロへ

小学校時代は「ヴァイオリンの練習か、ご飯を食べているか、学校に行っているかのいずれかだった」と笑顔で語る山本さん。芸大卒の先生の指導の下、セカンドヴァイオリン首席を担当。ハーモニーを感じられる喜びに目覚め、シンフォニーの世界へと歩み出した。

桐朋学園時代、国際コンクールの審査員ジョルジュ・パウクの誘いで英国へ留学。「演奏家として自分の出す音に責任を持て。なぜこの指使いなのか、自分で考えること」と徹底された。「あの二年間で大きく成長できた」と振り返る。帰国後、アンサンブル活動やジュニアオーケストラの指導を経て、「ブラームスの交響曲・全四曲を演奏したい」と群響へ入団した。

「今はYouTubeで弓使いまで研究できる時代。便利になった分、音の感覚までデジタル化しないか」と危惧し、曲のイメージをかき立てる「譜読み」の時間を大切にしている。

将棋と音楽と私

最近、趣味として小学校以来という将棋に夢中になっている。「駒の動かし方はすぐに蘇りました。実家での父との対局に時間を忘れます」

一方、ヴァイオリンは限られた時間に集中して取り組む。早めに譜読みし、一度寝かせ、様々な表現方法を試みながら、理想の音へと仕上げていく。

「今日の公演よかったよ」。街角でそう声を掛けられる高崎の音楽環境は、演奏家にとって優しく温かい。

今秋の高崎芸術劇場の完成は、演奏家にとっても刺激的だ。「ホールの響き方によって弾き方も変わる。技術をレベルアップさせて、新しい演奏に挑みたい」と前を向く。

「群響の音楽教室を経験している群馬の皆さん。私が将棋の楽しさを思い出したように、再び音楽を味わいに劇場にいらしてくださいね」

九月二十日、山本さんの新たな挑戦が「歓喜の歌」と共にスタートする。

Hazuki Yamamoto

■**出身** 東京都
■**入団** 2007年9月
■**最近の印象に残っている公演**
第535回群響定期演奏会
オーギュスタン・デュメイ指揮
(2018.2.24)
■**好きなアーティスト**
ギドン・クレーメル
ジョルジュ・パウク
■**好きな楽曲**
ブラームス「ホルン三重奏曲」